

第2章 自然の恵みが持続する ‘まち’の将来像

1 目標とする東海村の将来像

(1) 目標は 50 年後

本戦略は、本村における生物多様性の保全・再生と、自然の恵みを持続的に得ることができる社会経済への転換を目指すものです。そのためには、長期的な視野に基づいた取組みの継続が必要となります。

そこで、目標年を 50 年後と設定します。今、本村に生まれた子どもたちの子どもたちが成人する頃（孫の時代）を目標として、自然と共存する持続可能な東海村が実現していることを目指します。

(2) 50 年後の東海村の魅力あふれる自然環境

以下に、50 年後の本村の自然環境のイメージを示します。

自然環境

生物多様性の 保全・再生

- 斜面林、平地林、海岸林、また、社寺林、屋敷林などの樹林や湿地などが保全・再生され、その結果、樹林や湿地などの自然の面積が増え、東海村の風景がより美しくなっています。
- 住民や自治会、NPO からの多くの情報や提案をもとに、海浜植物が一面に咲く海浜、タカやフクロウが生息する平地林や斜面林、夏の夜にホタルが舞い、きれいな水が必要なトウキョウサンショウウオがくらす湧水のある水辺など、自然度の高い場所、そして希少な野生生物がしっかり守られています。
- 指標種の生息確認情報、イベントの開催情報など村内の生物多様性に関する日常の様々な情報が一カ所に集約され、住民や自治会、NPO、民間事業者、行政などが、必要な情報を、IT を利用して効率的に得ることができる場が整備され、それが広く知られ活用されています。
- 村内の貴重な自然地において、住民や自治会、NPO、学校、民間事業者、行政などの多様な主体の連携・協働により、自然が保全・再生されています。
- 持続可能なまちづくりの自然の基盤（グリーンインフラ）として、十分なビオトープ・ネットワーク※用語が形成されています。

(3) 生物多様性がもたらす 50 年後の東海村の主な社会経済

以下に、自然の恵みを積極的に生かした 50 年後の主な社会経済のイメージを示します。

農業 自然の恵みに 支えられて 持続する	• 美しい田園風景が、村民の生活に‘いやし’と‘うるおい’を与え、また、東海村のエコツーリズムにおける欠かすことができない題材になっており、他の自治体からも多くの人が視察・見学に訪れています。 • 自然と共存した特色ある農業が村内外から注目され、農業の担い手が確保されています。 • 担い手農家とそれを支援する村民や NPO との連携・協働により、里地の野生生物が守られ、また、有機農業が普及し、農業にとって欠かせない健全な土壌と水が大切に確保され、栄養豊かで安全・安心の農作物が村民に供給されています。
商工 地域の 自然資源を 生かす	• 地域の自然資源を最大限活用した、新しい産業が展開されています。
防災・減災 自然が持つ 防災・減災の 機能を生かす	• 斜面林や海岸林により、土砂崩れや津波、洪水などから、村民の生命や財産への被害を防いだり、最小限に抑えたりする、自然の防災・減災機能を最大限に生かしたまちづくりがなされています。 • 学校、公園、病院など、人が集うところの周囲には、東海村に本来見られる常緑の高木、中低木、草本類が植栽・管理され、延焼防止や防風・防音など、自然の機能を生かした取り組みが行なわれています。 • 村内の各所で湧水のある場所が守られており、地震や津波などの非常時に、それが村民の生活用水として役立っています。
まち整備 自然に囲まれ 美しく 魅力あふれる	• まち全体に、東海村の自然に本来生える植物を大切にする意識が浸透し、公園などの公共用地や民間の敷地で地域性種苗^{※用語}が積極的に植えられ、どこででも東海村本来の四季の移り変わりを感じることができます。 • 住民や NPO、学校、事業者など各主体が参画し、自然と共存した美しいまちづくりに向けて、連携・協働して自然を保全管理、活用する体制が整っています。

福祉

自然に囲まれ
いきいきと
活動する

- 野草や自然の木々の花を楽しんだり、どんぐりなどの実を拾ったりと、公園や散策路に、小さな子どもから高齢者まで村民の姿が見られます。こうした公園や散策路は、多様な主体の連携・協働により管理され、交流の場、そして、健康増進の場になっています。
- 高齢者が、自然や文化、歴史のインタープリター（解説者）として、学校や幼稚園、保育所、あるいは自然が豊かな公園などで、子どもたちに野遊びや民話などの東海村の自然や文化、伝統を伝えたり、子どもたちと一緒に自然を保全・再生したりする活動を楽しんでいます。

教育・保育

自然・文化・
伝統などを
大切にする
人材を育てる

- 保育所や幼稚園の敷地内やその周辺に安全に自然とふれあう場がつくられ、日常的な自然とのふれあいを通じて、子どもの豊かな感性や認識力、思考力及び表現力が培われています。
- 小中学校では、東海村の豊かな自然や伝統の大切さについて、発達段階ごとに系統だった村独自の教育が展開され、持続可能なまちづくりに参画する心が育まれています。
- 小中学校では、自然と共存した空間づくりが進められ、自然学習の場として活用されるとともに、地域の方々との連携・協働を学ぶ場となっています。
- 学校教育をはじめ生涯を通じて、自然の恵みや本村の貴重な野生生物について身近に学ぶ場が、様々な主体の連携・協働により、体系的に整備されています。

観光

自然などの
観光資源を
積極的に
生かす

- 行政の支援のもと、住民や NPO、事業者などがガイドとなって、東海村の自然、文化、歴史などの資源を題材にしたエコツアーが四季を通じて企画され、村外より多くの人が村を訪れ、一定の経済効果を生みだしています。

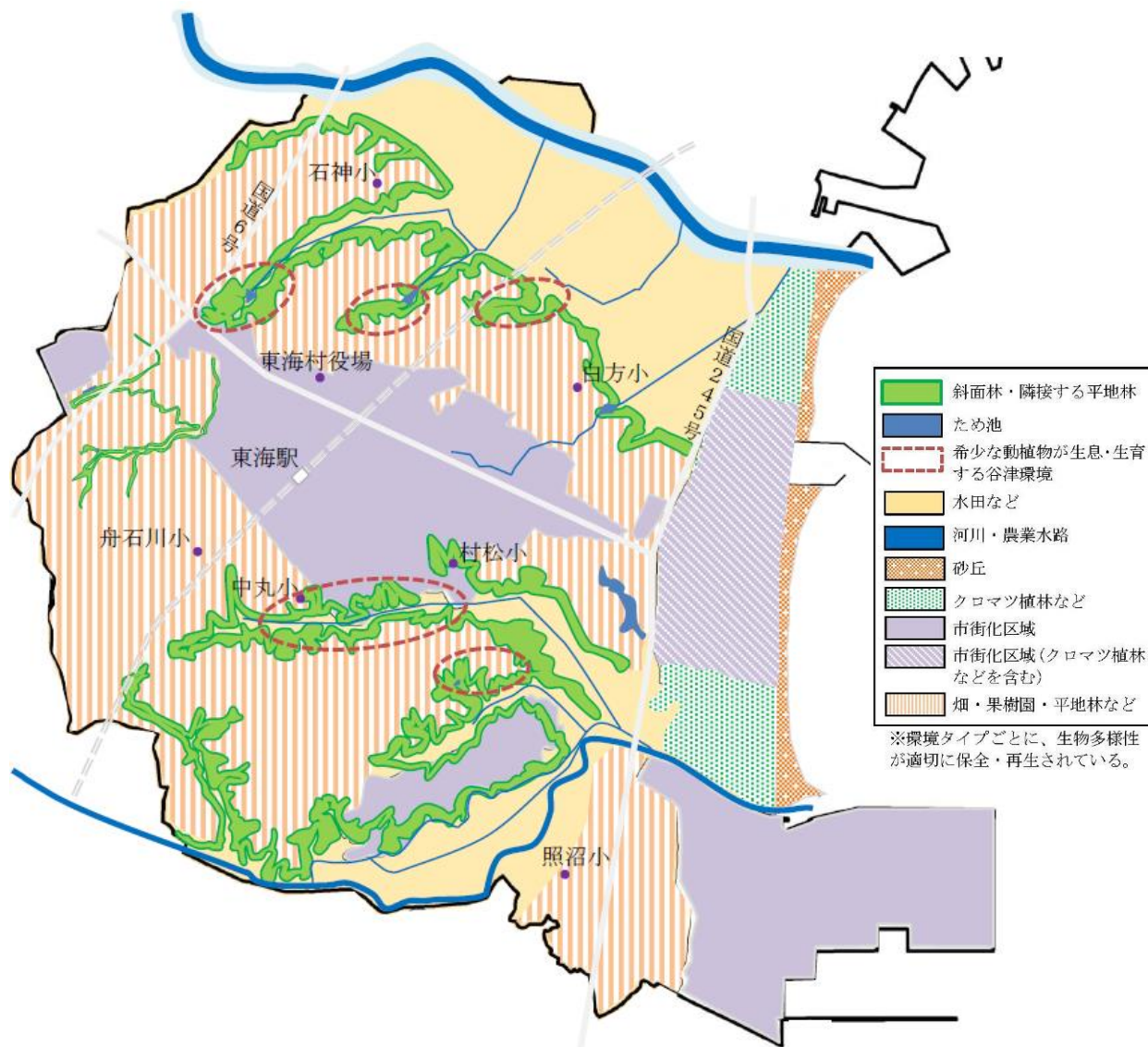
2 未来につなぐ‘まち’のかたち

「目標とする東海村の将来像」を具体化していくためには、生物多様性の保全・再生に配慮した‘まち’の形成が必要となります。

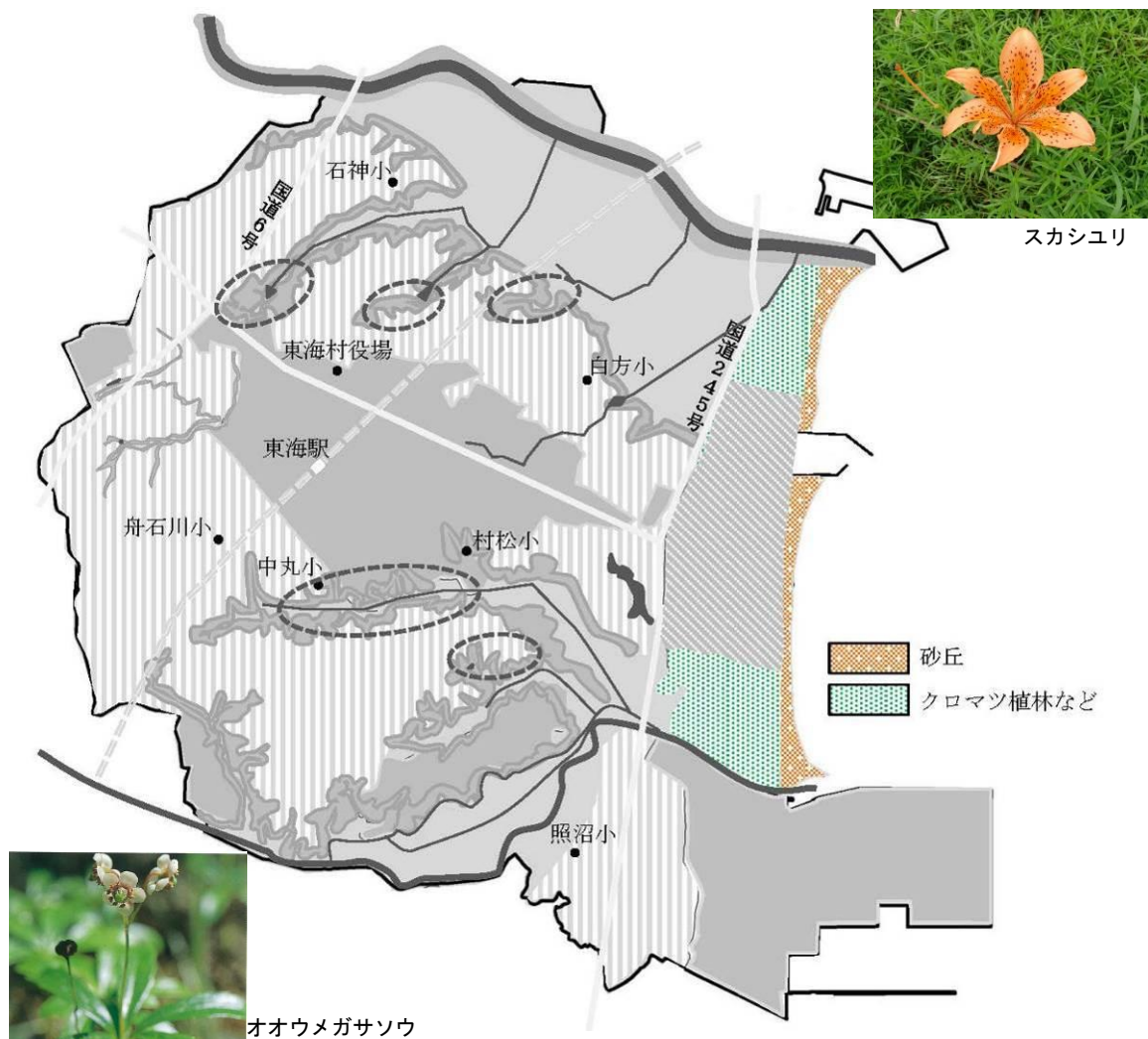
この‘まち’の形成を促進するためには、住民や自治会、NPO、民間事業者、行政などの各主体が同じ思いをもち、その実現に向けて連携・協働しながら課題解決を進めていくことが求められます。

以下に、自然の恵みを持続的に得るために、環境タイプごとの未来のかたちと、自然の健全さを示す主な動植物を挙げます。

図表5 東海村における未来のかたち



● 「海浜」の未来のかたち



未来の イメージ

- 本村の海浜特有の動植物の生息・生育環境が保全されている。
- 東側に広く青い海をのぞみ、砂地にはスカシユリなどの海浜植物が保護増殖され、本村ならではの美しい海浜の景観が取り戻されている。
- 海浜の優れた自然と村民が容易にふれあうことができる憩いの場となっている。

自然の 健全さを 示す主な種

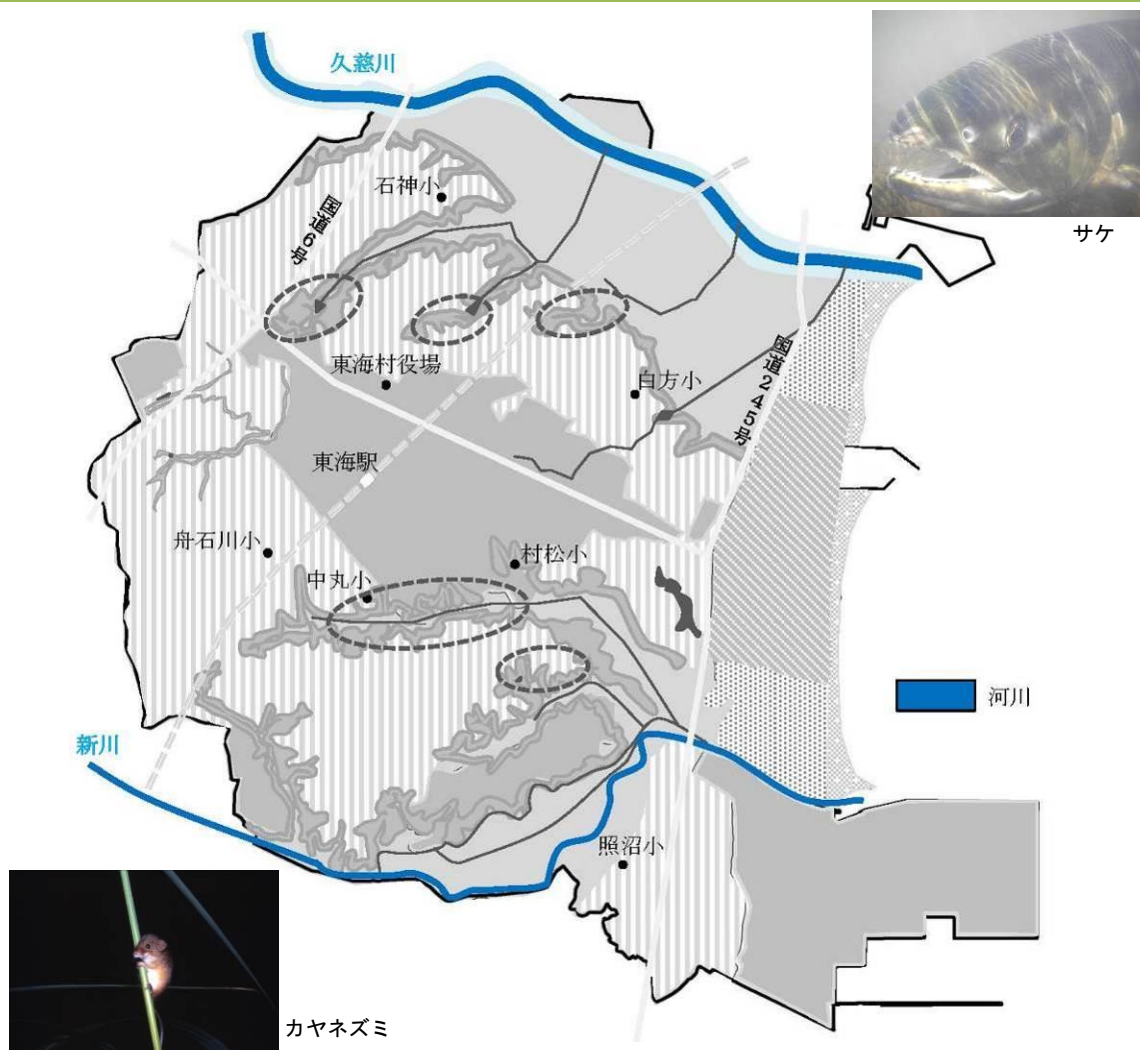
【植 物】スカシユリ、オオウメガサソウ、ハマカキラン、ハマナス

【哺乳類】ニホンリス

【昆虫類】ニッポンハナダカバチ

※資料編参照

● 「河川」の未来のかたち



未来の イメージ

- 現在見られる動物や植物がいつまでも見られるように保全されている。
- 河川敷に湿地環境が再生され、水鳥などが観察できる場となっている。
- 豊かな自然のなかで、春はアユが、秋にはサケが大量に川を遡上する風景を取り戻し、その恵みが享受できる環境になっている。
- 茨城県の代表的な河川である久慈川が、村民の憩いの場として、より身近な存在となっている。

自然の 健全さを 示す主な種

※資料編参照

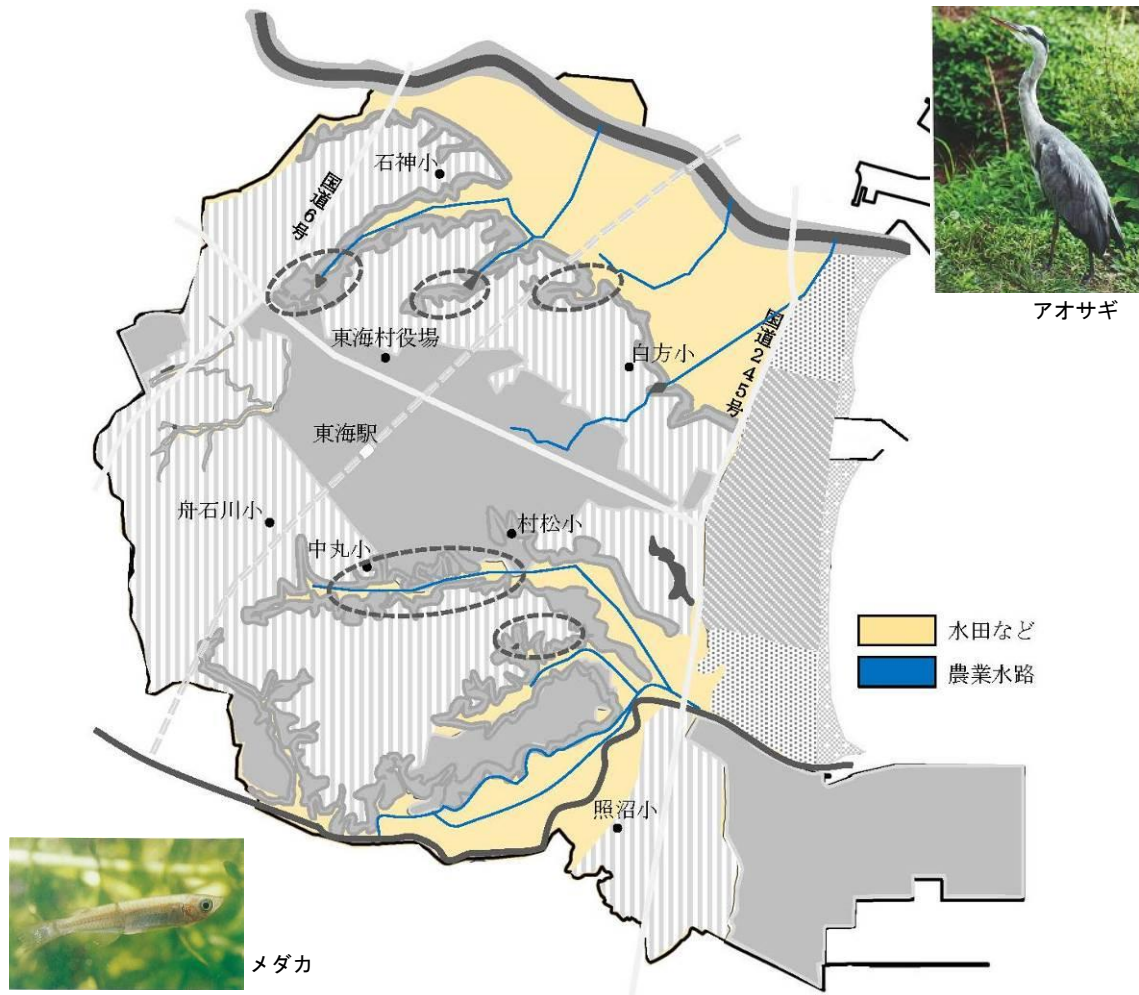
【哺乳類】カヤネズミ

【鳥 類】アオサギ、ダイサギ、カンムリカイツブリ（越冬）

【魚 類】サケ（回遊魚）、アユ（回遊魚）、カジカ、カワアナゴ、ギバチ

【昆虫類】ギンイチモンジセセリ

● 「水田，農業水路」の未来のかたち



未来の イメージ

- 農業の担い手への農地の利用集積が進み，優良農地面積が概ね維持されている。
- 減農薬や減化学肥料栽培，有機農業がさらに拡大され，地域に誇れる農業振興ゾーンとなっている。
- 里地里山の野生生物にあふれる水田農業が展開されている。
- 農業水路にも，久慈川や新川から魚が行き来し，繁殖するなど生物多様性の豊かな水路となっている。

自然の 健全さを 示す主な種

※資料編参照

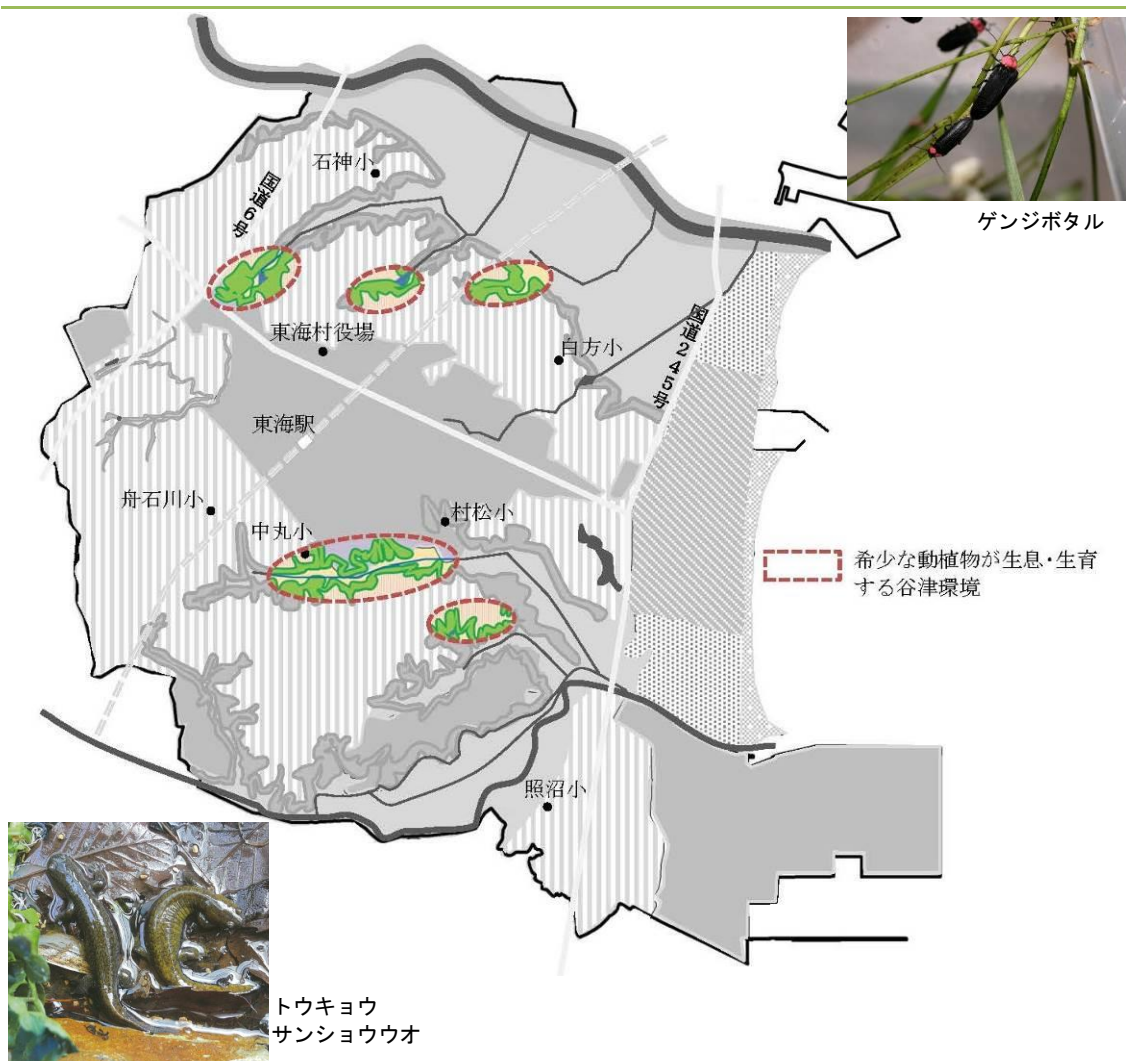
【植 物】ミズニラ，ナガエミクリ

【鳥 類】アオサギ，ダイサギ

【魚 類】ウナギ，メダカ^{※用語}，カジカ

【昆虫類】コオイムシ，ゲンジボタル，ハイケボタル

● 「谷津」の未来のかたち



未来のイメージ

- 農業の効率的利用を見込むことができない一方で、希少な動植物の宝庫となっている谷津※用語の谷頭に近い部分などは、村において斜面林などの周囲の環境を含めて土地が確保され、村民が主体となって、自然とのふれあいの場として、自然が保全・再生されている。

自然の健全さを示す主な種

※資料編参照

【植 物】ミズニラ、ナガエミクリ、モウセンゴケ

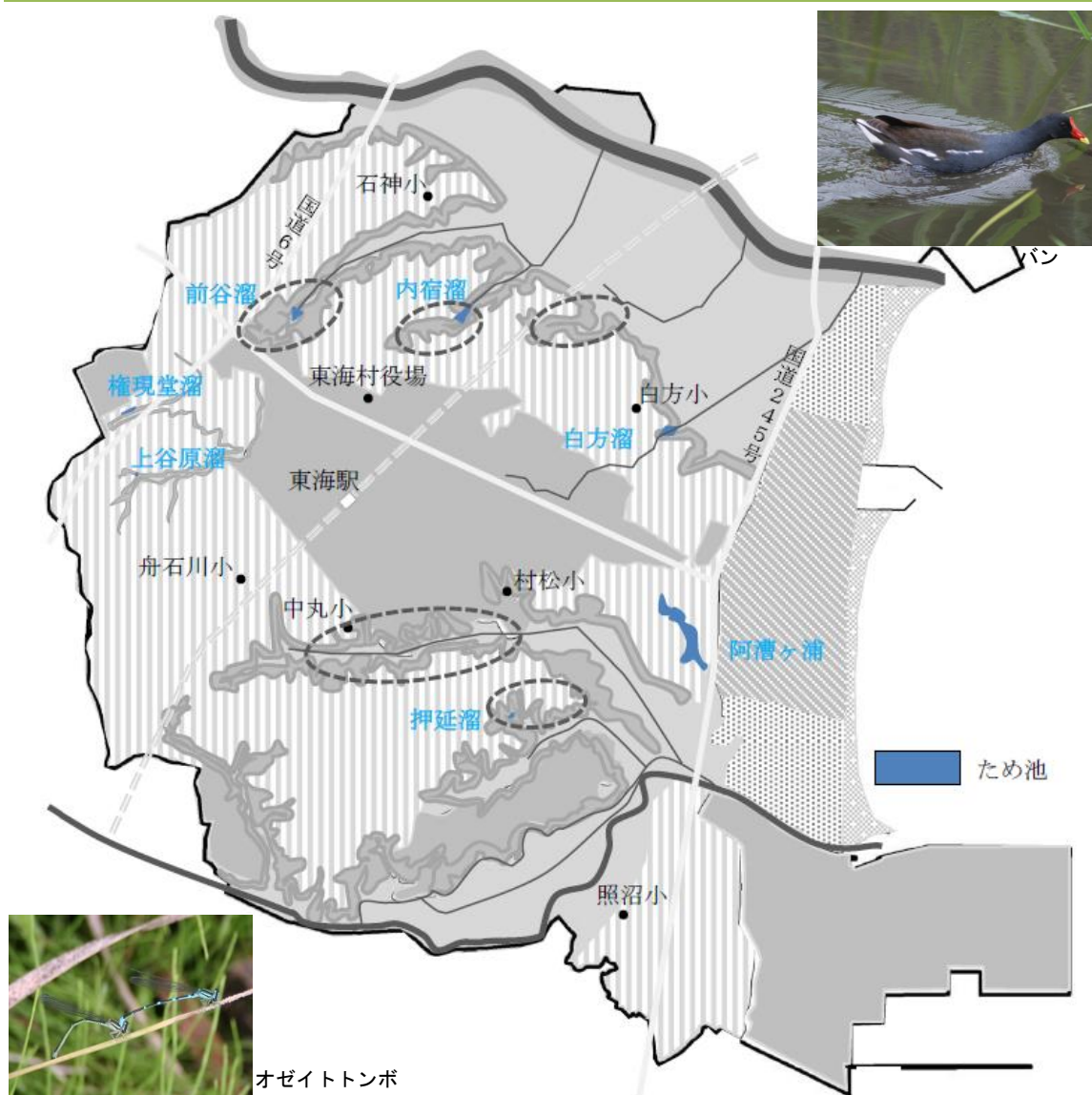
【鳥 類】オオタカ、カワセミ、バン

【魚 類】カジカ

【両生類】トウキョウサンショウウオ

【昆虫類】オゼイトトンボ、アオヤンマ、コオイムシ、ゲンジボタル、ハイケボタル

● 「ため池」の未来のかたち



未来の イメージ

- ため池^{※用語}は湿性植物が豊かに生育し、周辺の自然環境を含めて保全・再生され、本村ならではの自然を楽しむ場となっている。
- オオクチバスやアメリカザリガニなどの外来生物の防除が進み、在来の動物が増えている。

自然の 健全さを 示す主な種

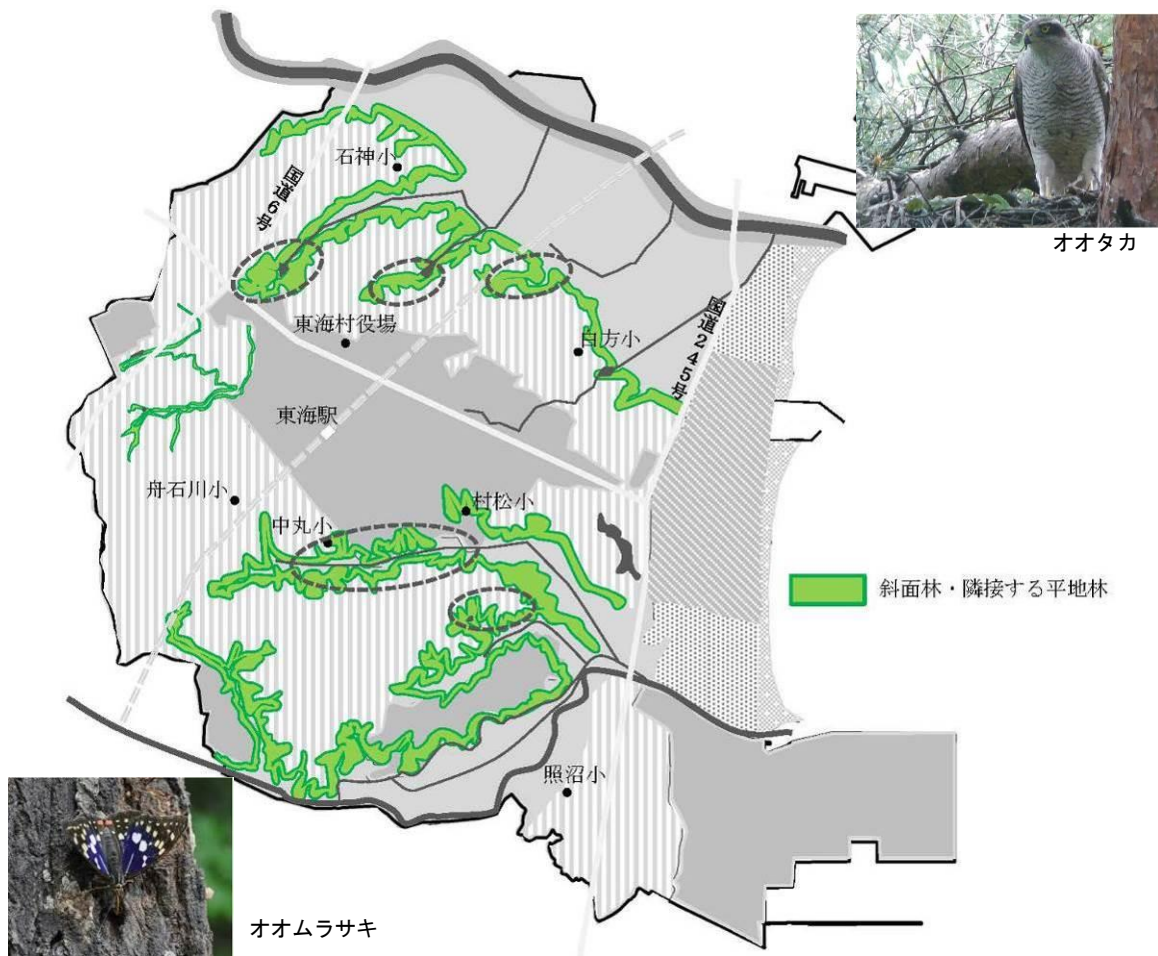
※資料編参照

【鳥 類】 オオハクチョウ（越冬）、コハクチョウ（越冬）、カワセミ、バン

【魚 類】 ギンブナ、ドジョウ

【昆虫類】 ムカシヤンマ、オゼイトトンボ、コオイムシ

● 「斜面林」の未来のかたち



未来の イメージ

- 斜面林は、隣接する上部の平地林とともに保全・再生され、連続性が回復している。
- スギなどの植林地やモウソウチクなどの竹林が拡大しているところは、広葉樹林へと誘導され、樹林としての質が改善されている。
- 早春にはトウキョウサンショウウオの卵塊が見られ、夏にはゲンジボタルやヘイケボタルが舞う、斜面林下の湧水のある水辺が保全・再生されている。

自然の 健全さを 示す主な種

※資料編参照

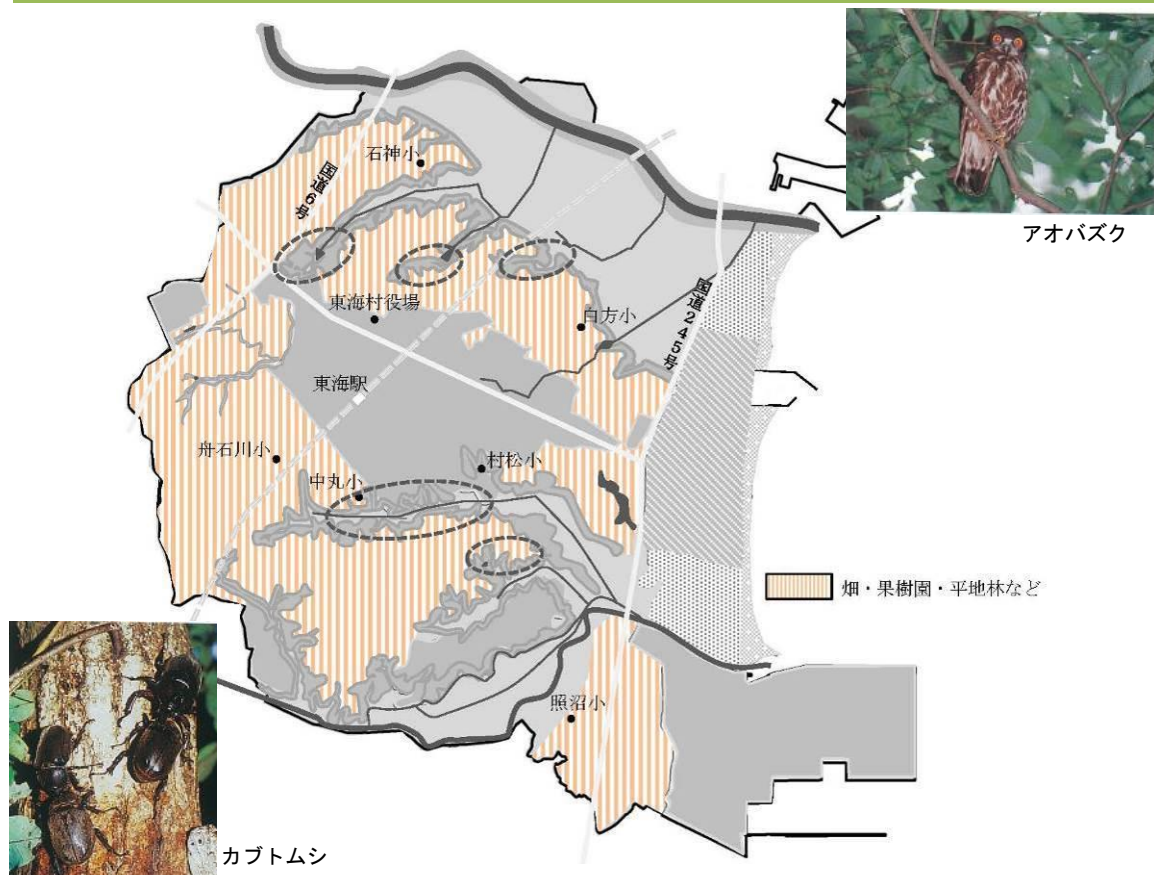
【植 物】カザグルマ、モウセンゴケ

【鳥 類】オオタカ、アオバズク、アカゲラ

【両生類】トウキョウサンショウウオ

【昆虫類】オオムラサキ、ヤマトタマムシ、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ムカシヤンマ

●「畑，果樹園，平地林」の未来のかたち



未来の イメージ

- 減農薬や減化学肥料栽培，有機栽培などの環境保全型の畑作や果樹農業が振興されている。
- コンパクトなまちづくり※用語が進められ，「市街化を抑制する区域」という市街化調整区域本来の理念にもとづき，他用途への転用が極力抑制されている。
- 農業の担い手への畑の利用集積が進み，効率的利用がどうしても見込めない畑は自然再生の検討を行っている。
- 希少種が見られる保全の重要度が高い平地林については，行政が中心となって土地が確保され，村民の自然とのふれあいの場になっている。
- 植林地で放棄されているところは広葉樹林へと誘導され，管理樹林としての質が改善されている。

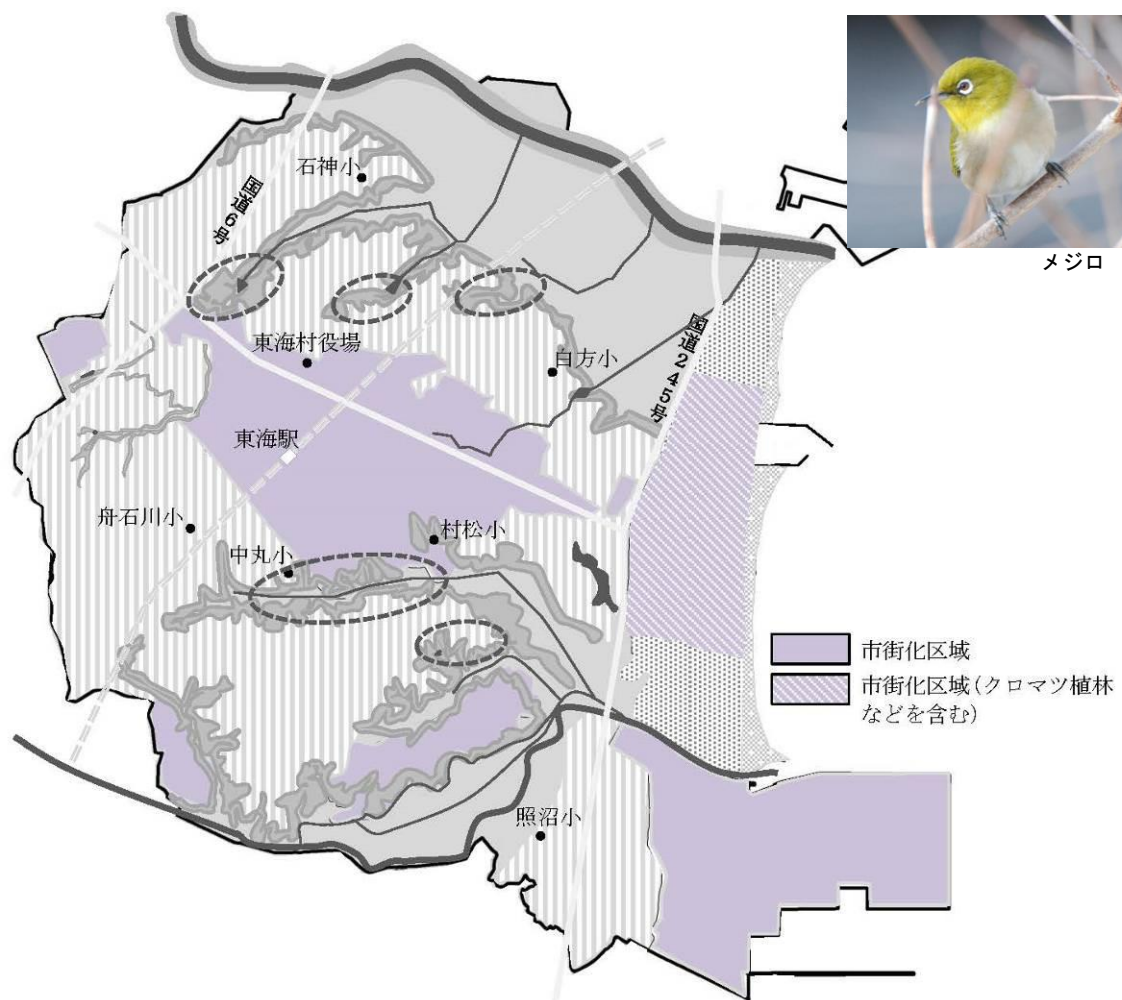
自然の 健全さを 示す主な種

【鳥 類】 オオタカ，アオバズク，アカゲラ

【昆虫類】 オオムラサキ，ヤマトタマムシ，カブトムシ

※資料編参照

● 「市街化区域」の未来のかたち



未来の イメージ

- 身近に自然が感じられるよう、公有地や民間の土地において、地域在来の樹木や野草の植栽が推進されている。
- 野生生物が生息・生育できるよう、樹林や水辺、草地などの大小様々なビオトープ^{※用語}が保全・再生されている。

自然の 健全さを 示す主な種

【植 物】スダジイ、シラカシ、コナラ、ヤマザクラ、シロダモ、ヤブツバキ、イロハモミジ、ムラサキシキブ、ヤブコウジ、ヤブラン、アケビ

※資料編参照

【鳥 類】メジロ